

## □最近の活動状況

## 【福島経済同友会創立70周年記念講演会】

—1月26日(金) ウェディングエルティ—

講師 笹川平和財団 上席研究員 渡部 恒雄 氏 (現 安全保障研究グループ 上席フェロー)

テーマ 2024年米国大統領選挙と国際秩序の行方

参加会員数 70名

## ○米国内の分断と国際秩序の流動化

2021年1月6日、大統領選挙結果に不満を持ったトランプは、支持者らに議会に行けと訴え、トランプ支持者が議場に乱入しました。この議場に乱入したトランプ支持者は、主にミドルクラス層、中流の白人たちで、中南米からの移民労働者や、中国からの安価な輸入品に敵意を持ち、同盟協力や国際関与に消極的です。

共和党は保守強硬派のトランプ支持と伝統的な保守派の脱トランプという二つに分れ、民主党もバイデン氏らの中道派とサンダース上院議員らの急進左派に割れています。

米国政府の分断、中国の台頭、グローバルサウスの影響力の増大は、米国の世界における求心力を大きく低下させ、国際秩序の流動化につながります。第二次世界大戦後の、米国の圧倒的な富と力の独占とその民主化イデオロギーが主導する世界は転換点を迎つつあります。中国やロシアはこの現状を千載一遇のチャンスと考え、世界の多極化を進めようとしています。

## ○パレスチナの戦火でバイデン外交が苦境に

2023年12月に行われたニューヨークタイムズとシエナ大学の共同世論調査で、イスラエル・パレスチナ衝突におけるバイデン政権の政策については支持が33%、不支持が57%でした。また、バイデンとトランプのどちらが、この件でいい政策をとると思うか？バイデン38%、トランプ46%で、大統領候補として投票する先は、トランプ49%、バイデン43%という結果でした。

米国の世論が不満に持つイスラエルの対ガザへの強硬姿勢は、強権化を強めるイスラエルのネタニヤフ政権がもたらしたのですが、トランプ前政権では、中東和平特使であった娘婿のクシュナー氏が、ネタニヤフ氏との家族ぐるみの付き合いという関係もあり、ネタニヤフ氏と緊密な関係を築いてきました。クシュナー氏は、やはり強権的で民主党左派から批判されてきたサウジアラビアの実質的指導者であるムハンマド・ビン・サルマン皇太子とも協力関係を築き、パレスチナ問題の解決を後回しにする「アウトサイド・イン」という発

想によるアブラハム合意などの中東和平政策を進めてきました。

パレスチナを置きざりにした政策がハマスに危機感を抱かせ、今回の武力衝突を引き起こしたイスラエルでのテロにつながったにもかかわらず、トランプへの期待が高まるという皮肉を感じます。



講師 渡部 恒雄 氏

## ○2024年大統領選挙

米大統領予備選挙は、1月16日の共和党のアイオワ州議員集会で開始します。共和党はトランプ氏、民主党はバイデン氏が指名を獲得する可能性が高いです。バイデン氏の弱点は、高齢化とインフレ経済で、トランプ氏の弱点は、4つの刑事訴追と人工妊娠中絶禁止への女性票の反発です。

現在は政権批判のためにバイデンを支持していないが、トランプ対バイデンの戦いになった場合、トランプ再選を望まない民主党支持者と無党派が、バイデンに投票する可能性は十分あるとみています。

## ○トランプが再選されたときの政策は？

トランプ前大統領が再選された場合に一番可能性がある話は、「自分なら24時間以内に行ける」と豪語しているウクライナでの停戦です。プーチン大統領にはロシアが占領するウクライナ領を与えるという「エサ」で釣りを、それを嫌がるゼレンスキー大統領には「ウクライナ支援の停止」を脅しにして、両者を交渉テーブルに付けて、自らの業績にしたいのだと思います。その目的は、かつて北朝鮮の金正恩総書記との非核化交渉の進展を理由に、安倍元首相にも推薦を要請した「ノーベル平和賞に値する業績」をアピールして、自身と関係者を刑事訴追から恩赦するための根拠にすることです。

## ○2024年の国際情勢の展開

ウクライナとイスラエル支援についての米国議会の機能不全と、2020年の大統領選挙の選挙結果を否定するトランプ前大統領が、共和党予備選で圧倒的な首位を走っている米国の現状は、ロシアのプーチン首相をはじめ、世界の反

民主主義勢力を勢いづける年になるとみています。

米国の大統領選挙により、バイデン政権の外交も内向きにならざるを得ず、国際秩序の求心力は弱くなります。2024年は、米国・ロシア・台湾・インド・インドネシアなどで70の選挙が予定され、42億人が投票を行います。これらの選挙の多くは、完全に自由な選挙ではない上に、米国でのトランプ人気に波及して、世界的な民主主義の退潮が反映すると予想されています。ガザでの暴力の応酬が継続することになれば、世界でテロを誘発させる懸念もあります。

2024年は世界各地域で戦火と政治対立を抱え、アナーキー(無政府・無秩序)さが増す一年になるとみています。

## ○日本の外交・安全保障戦略

米中対立は継続しますので、偶発の衝突を戦争にエスカレートさせないための米中対話は重要ですが、そのバックチャンネルを日中間で作る必要があります。日本は軍事上で米国への過度な依存を減らして自らの防衛力強化でグリップを持つ一方、中国経済への過度な依存も見直す必要があります。日本の防衛戦略は、中国の軍事力行使のハードルを下げないように軍事力を整備することと、日本の防衛産業と軍民両用技術の開発の双方を強化して経済発展につなげていくことです。米国の対中戦略においては日本がキャスティングボードを握っている状況ですので、日本の立場や実力を信じて行動すれば良い1年になると考えています。(文責:事務局)

### 【第9回朝食勉強会】

—2月13日(火) クーラクーリアンテ・サンパレス—

講師 原子力災害現地対策本部副本部長 内閣府原子力被災者生活支援チーム審議官 師田 晃彦 氏  
テーマ 福島の復興・再生に向けて 参加会員数 38名

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故から、まもなく13年を迎えようとしています。震災直後に出された避難指示が現在も継続し、未だに避難生活が続いている方々もおられるところ、御迷惑をおかけしており改めてお詫び申し上げます。今回の講演では、特に私が担当した避難指示解除に向けた取り組みや、着実に復興が進んでいる状況などを御紹介させていただきます。

令和元年から2年間の復興庁福島復興局勤務の後、1年間の東京・霞が関勤務を経て、令和4年7月に再び福島に着任しました。以降、8月30日の双葉町の特定復興再生拠点区域の避難指示解除、9月1日の浪江町の拠点区域の立入規制緩和、昨年(令和5年)3月31日の浪江町の拠点区域の避難指示解除、4月1日の富岡町の拠点区域の一部の避難指示解除、5月1日の飯館村の拠点区域等の避難指示解除、11月30日の富岡町の残る拠点区域の避難指示解除、という復興の節目となる取り組みに関わらせていただきました。他方、避難指示解除はゴールではなく復興のスタートで、今まで戻れなかったところに居住できるようになったのは着実な進歩ですが、今後はこの拠点区域のにぎわい創出、産業復興、関係・交流人口の拡大などを通じて、町の復興を後押ししていく必要があります。

また、昨年6月に成立した改正福島特別措置法に基づき、拠点外の帰還意向のある方の生活圏の避難指示解除を目指す「特定帰還居住区域制度」が創設され、これに伴って昨年秋から本年春にかけて大熊町・双葉町・浪江町・富岡町の特定帰

還居住区域復興再生計画が内閣総理大臣認定を受けました。政府としては、将来的には帰還困難区域の全てを避難指示解除し、復興・再生に責任をもって取り組むこととしており、我々原子力災害現地対策本部としても、帰還困難区域全域の避難指示解除に向けて着実に取り組みを進めてまいります。これからも福島の皆様の御理解と御協力をいただきたく存じます。

また、昨年8月にALPS処理水の海洋放出が開始されました。これも昨年7月のIAEAグロッシー事務局長の来日と福島第一原発の現地視察、8月22日に関係閣僚会議でALPS処理水の海洋放出を決定した直後の経産大臣の福島県訪問などにも同行させていただきました。これまで3回の海洋放出を実施しましたが(注:本年2月時点)、海水や魚のモニタリングの結果、計画通りに放出できており、安全であることが確認されています。心配された風評被害も、一部の国から科学的根拠に基づかない輸入禁止措置がなされたこと等を除けば、全体として落ち着いた反応をいただいております。

福島に関心を持ち、関与し続けることこそが、福島の復興につながると思います。これからも全力で取り組んで参りますので、御指導・御協力よろしくお願ひします。

(文責:事務局)



講師 師田 晃彦 氏

□今後の予定

【第14回朝食勉強会】

日 時：2024年8月21日(水)  
 会 場：ウエディングエルティ  
 講 師：一般社団法人日本ポジティブヘルス協会 代表理事 秋山 綾子 氏

【第47回経済同友会東北・北海道ブロック会議】(詳細決まり次第ご案内申し上げます)

日 時：2024年10月17日(木)  
 会 場：ホテル青森

□事務局だより

○2024年3月から2024年4月に入会・変更のありました会員を紹介します。(敬称略)

新規入会		2024年4月入会 佐久間 弘一 (株)NCI 代表取締役		
	会員交代		2024年3月交代 沼田 望 東京海上日動火災保険(株) 福島支店長	
		2024年3月交代 松崎 知秋 (株)常陽銀行 福島支店長		2024年4月交代 神谷 憲昌 三井住友海上火災保険(株) 福島支店長
		2024年4月交代 寒竹 大輔 日東紡績(株)福島事業センター センター長		2024年4月交代 牧野 知弘 (株)商工組合中央金庫 福島支店長
		2024年4月交代 去川 真也 大和証券(株) 福島支店長		2024年4月交代 庄司 高志 富士通Japan(株) 福島公共ビジネス部長

- 退会 朴 栄光 イービーエム(株)・代表取締役  
 石田 朗 三井住友海上あいおい生命保険(株)・福島生保支社長  
 引き続き会員増強にご協力をお願い申し上げます。(2024年6月9日現在 会員数102名)

編集日誌

◇梅雨の季節。晴れた日は蒸し暑く、雨の日は湿度が高くジメジメとして、雨が降り続くと家にいる機会も多くなりがちです。そんな気分が上がらないこの時期、あじさいの花を見に行ってみてはいかがでしょうか。雨に濡れてこそ美しい色彩豊かなあじさいを愛でて憂鬱な気分を吹き飛ばしていきましょう。(今野)

## □会員企業紹介 【第37回 協三工業株式会社】

今回は協三工業株式会社の加藤社長にインタビューしました。当社は、今でも蒸気機関車を製造できる国内唯一のメーカーとされています。創業の経緯や今後の展望など様々なお話を伺う事ができました。

### ○創業の経緯

1940年、初代社長が福島製作所から独立し、鉱石運搬用の鉄道車両を製造する会社を立ち上げました。以来、蒸気機関車やディーゼル機関車、橋梁、水門、水管橋、各種クレーンなど幅広い分野での鋼構造物製品を送り出してきました。社名の由来は、初代社長が兄弟3人で協力して事業に取り組むとの思いから「協三」と付けたと聞いています。



加藤社長

2003年から翌年にかけて、取引先の民事再生が相次ぎ大きな損害を受けました。そのような状況で迎えた創業65周年の年を第二創業元年と位置付け「ゼロからの出発」を誓い合い、以後「会社の存続・発展、社員と家族の生活安定・向上、社会貢献」の三者が協働して発展することを目指して取り組んでいます。工場敷地内には、福島稲荷神社から分祀していただいた光寿稲荷神社があります。以前は工場近くの人目につかない仄暗い場所にありましたが、これではいけないとの思いから、社員が毎朝通る社屋の隣に遷座しました。その側に「成功の鍵」というモニュメントがあります。これは、ゼロからの出発と第二創業をモチーフとしており、創業当時から今も残っている金庫の鍵を大きくしたものです。

### ○ベトナムとの協働

2007年、金融機関主催の視察旅行でベトナムへ行き、人の多さと若さに驚きました。その後、ベトナムでものづくりの技術指導をして欲しいと依頼され、ベトナムの職業訓練校へ社員を派遣し、指導を始めました。2013年8月に現地法人を設立し、訓練生の中から社員を採用しました。この社員は、本社にて実務研修を受けているので、技術は一流だと自信を持って言えます。ベトナムとの交流を続け技術者を育成し、両国の発展に寄与できるように注力して参ります。

### ○たかがラジオ体操されどラジオ体操

創業以来、当社では毎朝全員でラジオ体操を行っています。長年の取り組みが評価され、2021年度ラジオ体操優良団体等表彰において全国表彰を受賞しています。ラジオ体操は、社員の健康促進と事故防止につながり、また、社員全員が同じ活動を行うことで一体感が生まれ社内での連携が強化されていると感じています。

### ○やめて欲しい社員はいません

60歳で定年を迎え再雇用時に給与が下がるというのが一般的だと思います。当社では定年時の給与は下げずに、65歳までベースアップを行っています。この背景には、オイルショックの時、低迷していた時期があり給与も高くない中でも、当社の技術を受け継ぎ次の代へと繋いでくれた社員を大切にしたいとの思いもあり、定年後の賃金体系を他に先んじて構築しました。社員一人一人が、これまで磨き上げてきた高度な技術や能力を持っており、当社にとってかけがえのない技術者です。定年後も安心して働き続けて欲しいと思っています。

### ○廃炉に携わることは天命

東日本大震災、福島第一原発事故によって当社も大きな試練に見舞われましたが、社員一丸となって乗り越えてきました。原発の廃炉作業は、30年、40年かかるとも言われています。原発の廃炉は、福島の復興に直結しています。これまでも原発関連の製品は手掛けてきましたが、今後も、長年培ってきた当社の技術を活かし、廃炉作業に携わることが天命と心がけ、地元の製造業として、福島の復興と社会の発展に貢献できるよう、社員一同、真剣に取り組んで参ります。



住 所 〒960-2154 福島市佐倉下字光寿院前1-1  
 創 業 1940年2月  
 従業員数 70名  
 T E L 024-593-4901  
 U R L <http://www.kyosankogyo.co.jp>

